

次から次へと新たな方法を考えるゴト師達、 大手警備会社の裏をかく新たな手口とは？

今回はそのパツカン防止を行った警備会社の裏をかく、新たな手口について解説する。「斬、耕平が斬る！」

方でも、警備会社から「そういう犯罪手口が横行しているの注意してください」との連絡を受けた方はいるだろうか。いても極小だろう。

警備会社は、自分の方から事例を挙げる事を極端に嫌う。有る時私が「警備会社に確認してください」と連絡をさせると「確かに被害は出ています」とは言う（白状）が、酷い時は「センターで、どのセンサーが稼働しているのかわかりますので安心してください」と嘘を言う。これについては後述する。

P業界で何故パツカン事件が拡大したのか・・・

パツカンがどのようなものか、前回の解説で理解して貰えた事と思う。このパツカンによる侵入事件は、P業界で大問題となった。

その最大の理由は、被害に遭った事が発覚し辛いからである。

まず通常泥棒が侵入する大抵の目的は、金品の強奪か殺人、レイプである。

大抵は被害に遭った事が直に分かる。だれでも自分の家の金庫が開けられ、重要なもの

のや高価なものが盗み出され、それは金か、金の延べ棒、高級腕時計かもしれないが、無くなれば当然分かる。

レイプにしても、仮に睡眠薬を嗅がされていても、目覚めれば異変に気付くであろう。

P店に侵入しても泥棒はものを盗まない・・・

P業界では、泥棒がものを盗むどころか置いていくのだから始末が悪い。

いわゆる裏口ムやぶら下がりだ。巧妙にすり変え仕込んでいるので、我々のようなブ

口でなければ発見する事が容易ではなかった。

つまり、取り付けられていから分かったのではなく、割が取れなくなった事から怪しいと考え、検査を依頼して初めて交換され、被害に遭っている事に気付かされる。

この様に発覚が遅くなってしまう事が、拡大した大きな原因である。

警備会社がギブアップしてしまった新たな手段とは・・・

警備会社ではパツカン防止の為、ワイヤーをセンサーに

取り付けた。これによって上から被せるパツカンは激減した。しかしこれで事件が終わったわけではない。

前回のフラッシュゴトの解説で、赤外線フィルムについて説明した。ゴト師達はこの赤外線フィルムを利用した。

正式には「赤外線遮断フィルム」と呼ばれる。これを蟹のお腹の三角部分の様に型取り、それを防止ワイヤーに関

係なく直接センサーに取り付けた。これに警備会社はなす術を失ってしまった。

長らく業界に携わっている

P業界以外へ拡散・・・

ゴト師達はこの方法が凄いに気付いた。そしてP店以外にも狙いを広げた。それが宝石店だった。

御徒町と言うところをご存知だろうか。上野のパチンコ村と近接しているので立ち寄られた方も多い事だろう。

そのガード下に小さな宝石店が並ぶ。ガード下だけに天井が低い。高級なブティックとは全く異なり、宝石の小売店のようなところだ。

その店で客の振りをして店員と話す。その隙に相棒がコ

ーティングスプレー（水漏れ防止）を、セキュリティセンサに吹き付ける。天井が低い故にやられてしまった手口だ。

この下準備を行った後、窓や壁を割り貫いて侵入し、感知できないセンサーの前で、堂々と宝石を盗み逃走した。

私の知るところで、大手の新聞やテレビ等のマスコミはこの事件を殆ど取り扱っていない。

理由は分からない。警備会

社が戒厳令を出したのか、それとも模倣犯を出す事を恐れ、自粛したのかもわからない。

P店と違い、翌朝に出動したとき犯行が判明し、被害金額も推定できたところだ。

その後の対策方法として画像認識センサーが開発され、多くの店舗で導入されている。これについてもある事件が起きた。さすがに紙面でお伝えする事は控えた。

何かの機会があれば話す事

もあるかもしれないが、それまではご了承願う。

大手警備会社が言った嘘・・・

「センターで、どのセンサーが稼働しているのかわかりますので安心してください」との返事を私は嘘と言った。

ここまで言い切るとクレームを起これそうだが、事実なので恐れずお伝えする。

山陰地方の検査で・・・

数年前、山陰地方のホール様に検査に行った時の事だ。結果については割愛するが、問題は、その時の警備会社の対応である。

私の検査は台に仕込みが有るかどうかを検査するだけではない。仕込まれていなかったとしても、単に、たまたま、かもしれない。

せっかく検査の依頼を受けたのだから、今が正常。だとしても、今後正常でいられる。ホールがどうかまでチェックしなければならぬ。

「ここに抜け道が有りますね。これについて警備会社に追加のセンサーをお願いしてください」

驚いた担当者は、直に警備

会社へ連絡を入れた。そして警備員が飛んで来た。

「どこが抜け道だと言うんですか？」語気が少々荒っぽい。

「ここですよ、ここをこういふふうに侵入して来たとき、どのセンサーも反応できない」

「そんな事は絶対ありません」
「ではここから私が侵入するので、どのセンサーが反応したのか教えて下さい」
「わかりました」

全員に事務所に待機してもらい、セキュリティのスイッチを入れてもらう。

「いいですか、行きますよ」携帯電話で行動開始を伝えた。そして私は見事に発報させる事無く、島内に立った。

逃げ出した警備員・・・

「どうです、センサーは発報しなかったですよ」

「じゃ、チョット待って下さい」と言いながら携帯電話を持つ

て外へ飛び出した。

なぜ外で話さなければならぬのだろうか。10分程で彼は戻って来た。

「セ、センサーは反応しているのですが、なぜか発報しないので・・・」

「なぜか発報しないとはどういう事だ！」
「私より早く、部長が怒った。呼び出した時から、警備会社が嘘をついている事は見え見えで、さらにくだらない言い訳をした事で、堪忍袋の緒が切れたのだろう。」

「す、直に対応しますので」と言っていて、逃げる様に飛び出して行った。

結局後日、私の指摘した場所に追加のセンサーを取り付けた。勿論無料。

この連載も今回で一年を迎えた。さて二年目は何について、斬らして、頂こうか。



illustration : t.tsuakamoto



なかの こうへい
1957年高知県出身。大手OA機器販売メーカー・大手建設会社などでの勤務経験の後、パチンコ業界に入る。その後、三十年以上にわたり、パチンコ業界の全てを研究しつつ、各遊技業協同組合でも不正防止講演会に講師として参加するなど、不正防止の知識を広げるべく活動を行っている。